



水産情報速報版

H27. 12. 4. №1342
 静岡県漁業協同組合連合会
 ☎054-254-6011 Fax054-253-9343
 編集・発行＝指導部漁業振興課
 URL:http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/

1. 第2回協議会を開催

—静岡県 TPP 漁協対策協議会—

静岡県 TPP 漁協対策協議会では、11月27日県水産会館において第2回となる対策協議会を開催しました。当協議会は、10月5日のTPP大筋合意を受け、水産物の関税撤廃・削減による影響や牛肉など畜産物の関税撤廃による、食卓における魚から安価な輸入畜産物へのシフトとそれに伴う水産物消費の減退や魚価下落への懸念など、考えられる様々な影響に対処するため県内の水産関係団体と行政が一体となり設置されたもので、11月5日には、第1回協議会となる『TPP対策を求める漁業者集会』を開催し、満場一致で決議文を採択しました。

今回は、先に県水産振興課が実施したTPPに関するアンケート『県内水産業におけるTPPの影響について』の調査結果と11月25日に決定・公表された政府の政策大綱を受けて、今後の対応についての具体的な対策や活動スケジュールなど基本的方向性を検討するため開催されました。冒頭、静岡県 TPP 漁協対策協議会 荒川会長（県漁連会長）が「会員の皆様による建設的な協議を頂き、県下の漁業・漁協系統組織の体質強化と本県水産業の持続的発展に寄与することを期待する」と挨拶、県水産振興課高瀬課長と協議会事務局のアンケート結果報告と政府が決定した政策大綱に関する概要説明が行われた後、取組みの柱、方向性と行政への要望を含めた具体的な対策案などについて協議し活発な意見交換を行いました。

2. 第16回フレッシュ・ミズ・プログラム開催

11月5日、6日の両日、JF全漁連、JF全国女性連による「第16回フレッシュ・ミズ・プログラム」が、本県において開催され、全国から約50名の関係者が参加しました。

1日目は、焼津グランドホテルにおいて行われ、冒頭、吉村榮子JF全国女性連会長が「現在、全国の女性部は、部員の高齢化、減少などにより活動の停滞や休部に追い込まれるところもある。どうすれば皆が参加したくなるような魅力的な女性部になるのか、活性化を妨げている原因は何か、参加者全員で考えてみてほしい」と挨拶し、静岡県漁協女性部連合会事務局の「静岡県の漁協女性部概要」報告と由比港漁協女性部部長 望月ひとみさんによる活動事例報告、「地場水産物に価値を付ける!」と題した、県水産振興課水産振興班長 平塚聖一氏の講演の後、海とくらし研究所代表 関いずみさん（東海大学海洋学部教授）のコーディネートによるグループ討論「みんなで井戸端会議～考えてみよう、これからの女性部活動～」が行われ、活発な意見交換が行われました。

翌日は、JA静岡市女性部販売所「アグリロード美和」と由比港漁協を視察、アグリロード美和では、海野フミ子さんから取組みの説明と男女共同参画についてのアドバイスを受け、由比港漁協では、サクラエビのかき揚げ井やサクラエビの釜揚げ、生シラスに舌鼓を打った後、宮原淳一由比港漁協長から資源管理型漁業や6次産業化、食育活動などの取組みについて説明を受けるとともに施設見学などを行い、2日間の充実した研修を終了しました。

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

3. 水産関係マネジメント人材育成研修終了

—県漁連—

県漁連が県の委託を受け実施していた「平成27年度水産関係マネジメント人材育成研修」が、11月13日の第8回をもって、全ての研修を終了しました。

本年度の研修には、漁協や水産関係団体から17名（漁協12名、県漁連4名、信漁連1名）が参加し、「魚の高付加価値化」について、座学や先進地視察、グループワークなど7回の研修を受講した後、各グループの代表者による、選定したテーマについて研修成果発表が行われました。

当日は、研修生が所属する漁協の組合長をはじめ、関係団体、県水産振興課の職員も出席し、4ヶ月に亘る研修の成果を聴講しました。本事業は、今年度が最終年となり、過去4年間（初年度は県主催）で総勢67名が研修に参加、所属団体や地域において、身に付けたマネジメント能力を発揮し活躍されています。

なお、8回に亘って開催された平成27年度研修の内容・テーマは以下のとおりです。

回	研修テーマ	講師
第1,2	漁協等と地域の発展に必要な発想力と企画力を磨くための研修 （株）インソース 青野祐一氏	
3	漁協等の販売量を強化する手法や技術を習得するための研修 （株）ティーアールアイ 田坂行男氏、全漁連直販事業部 渡辺マネージャー	
4	水産物の高付加価値化についての先進地事例紹介 鳥羽磯部漁協 森田総務課長、魚津漁協 浜住参事、NPO海のくに・日本 佐藤安紀子氏	
5	先進地視察研修（視察先：神奈川県水産研究センター、小田原市漁協、（株）小田原魚市場）	
6	グループワーク（選定テーマについて討議）	
7	グループワーク（成果発表会に向けた討議）	
8	成果発表会	

4. 平成27年度魚種別系群別資源評価の公表

—水産庁—

水産庁では、毎年、水産資源の適切な保存及び管理に資するため、我が国周辺水域における主要な水産資源の状況調査を国立研究開発法人 水産総合研究センター等で構成される共同実施機関に委託、その結果を解析して資源評価を行っています。

今回、公表された主な水産資源の資源評価は以下のとおりです。

魚種（系群）	資源評価	魚種（系群）	資源評価
マイワシ（太平洋系群）	増加：中位	スルメイカ（冬季発生系群）	減少：中位
マアジ（太平洋系群）	横ばい：中位	スルメイカ（秋季発生系群）	横ばい：高位
マサバ（太平洋系群）	増加：低位	ヤリイカ（太平洋系群）	減少：中位
ゴマサバ（太平洋系群）	横ばい：高位	ウルメイワシ（太平洋系群）	増加：高位
サンマ（太平洋北西部系群）	横ばい：中位	カタクチイワシ（太平洋系群）	減少：中位
ブリ	増加：高位	ニギス（太平洋系群）	減少：中位
トラフグ（伊勢・三河湾系群）	減少：低位		

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう